

## 冬-4 どうぞよいお年を

### 1. 活動の目的

- ① 1年を振り返り、印象に残ったことを話して、みんなで楽しく1年を締めくくる。
- ② 日本の年末の習慣を知る。

### 2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆おせち料理の写真

☆年賀状(練習用) 人数分コピーする

※学習者に年賀状(実物)を持ってきてもらおうと尚よい。事前に言うておくこと。その際、郵便局で買えること、いろいろ種類があるが「無地」でいいことも伝える。また、年賀状を送りたい相手の住所も準備してくるよう言うておく。但し、強制はしない。

☆年賀はがき、普通のはがきのサンプル

・色鉛筆またはカラーペン

### 3. 活動の手順 **留**: 留意点 **参**: 参考 **発**: 発展的活動

#### 活動1

・エリーさんの例のように‘自分の3大ニュース’を話してもらう。思い出す時間を少し取ってから、一人ずつ発表する。ボランティアも発表する。

**留** 3つなければ、2つでも1つでもよい。

プライベートなニュースを話したくないという学習者には強要しない。

社会的な出来事で印象に残ったこと(世界の/日本の/自国の三大ニュース)でもよい。

#### 活動2

おせち料理の  
写真

・まず、元太君の日記を読んで、日本の一般的な年末の過ごし方を知ってもらおう。イラストの事柄について経験のある学習者がいたら、どこで、だれと見たか、食べたか、聞いてみる。また、おせち料理の写真を見せて、デパートなどでおせちを売っているのを知っているか聞いてみるのもよい。

**留** 除夜の鐘、年越しそば、紅白歌合戦などの説明に終始しないよう留意する。学習者のレベルに応じて、何をどこまでどのように説明するか準備しておき、学習者から質問があれば、答える。

**参** 日本の正月は1月1日だが、旧正月(2月ごろ)を祝う国もある。

・次にテキストの質問に沿って、学習者の国の年末について話す。  
・正月料理について説明するのが難しいようであれば、絵を書くように言ったり、魚か肉か野菜か、甘いか辛い、どんな色かなど聞いたりして、学習者の発話を手助けする。

- ・テキストの昆布巻き等の写真で、おせち料理には意味があることを紹介し、学習者の国でも同様のことがあるか、聞いてみる。吹田のイメージキャラクター‘すいたん’は「吹田くわい」であることも紹介する。

### 活動3

はがきサンプル

- ・年賀はがきと普通のはがきを見せて、どこが違うか気付いたことを言ってもらおう。スタンプのデザインが干支であること、くじがついていることなどを話題に話を広げる。
- ・干支を知らない学習者には、日本では年（とし）に動物の名前がついていて、「今年は〇〇年」という言い方をすることを紹介する。

年賀状コピー  
色鉛筆など

- ・練習用の年賀状コピーに年賀状を書く。ボランティアが書いて見本を見せる。
- ・学習者が年賀状を持ってきていれば、練習した後、実際に年賀状を書いてもらう。
- ・年賀状はできるだけ元旦～3日に届くように、12月15日～25日ぐらいに出すのがいいということも教えるとよい。

**留** 年賀状を書くのに時間がかかるようであれば、先に活動4の挨拶を練習し、年賀状を書くのは活動の最後にもってきてもよい。

### 活動4

- ・学習者に、近所の人や会社の人などまわりの人に自分から「どうぞよいお年を」と声をかけるようにしておく。